

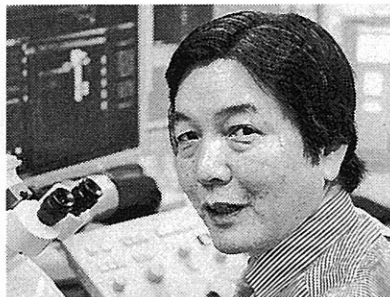
独選のフンボルト大に賞に授けられた東京大教授 幾原 雄一さん

この人

■「セラミックス中の不純物の原子が見えた」

「針金を曲げるのは簡単なのに、元に戻そうとすると硬いのはなぜ?」。子どもどころ不思議だった。鉄鋼会社の工場長だった祖父の影響もあったという。

答えを見つけたのは大学で学んだ材料科学の中だった。「ほとんど面白くなつて」、鉄鋼メーカーをけり大学院に残った。そして新しい疑問に出会う。「セラミックスに不純物を混ぜると硬くなるのはなぜ」



セラミックスを焼くと、硬さや電気抵抗など性質が大きく変わる。携帯電話の部品などに応用されるが、不純物の働きは分からず、求める性質を出すには手探りするしかなかった。

「働きが分かれば経験に頼らずに、いい材料ができる」。電子顕微鏡を巧みに使い、セラミックス中に並ぶ不純物の原子を一つ一つ映し出した。

「セラミックスは作っていくらの世界。『原子が見えた』と言っても、最初は理解されなかった」と笑う。だから「ドイツのノーベル賞」と評されるフンボルト賞で評価された喜びは大きい。

名古屋のファイナセラミックスセンターや東北大を飛び回る日々だ。三重県出身。五十一歳。(永井理)